

あきる野市・栗原市中学生友好親善交流会 ～今年度は栗原市で開催～

7月31日(火)から8月2日(木)までの3日間、あきる野市と宮城県栗原市の中学生による友好親善交流会を行いました。

この事業は、「五日市憲法案」起草者である千葉卓三郎の生誕地が宮城県栗原市(旧志波姫町)であることをきっかけに平成元年から開催しています。

今年度の交流会は、あきる野市の生徒代表28人が栗原市を訪問し、3日間にわたり交流をしました。生徒会活動による交流や部活動交流として、ソフトテニス部による交流の他、千葉卓三郎ゆかりの地や、平成20年の岩手・宮城内陸地震の被災地を見学し、また、栗原市産の食材

がつまつたお弁当をいただいたり、餅つき体験等を行いました。生徒会交流は、栗原文化会館において、あきる野市6校、栗原市8校の各生徒会代表が集まり、前半は学校紹介や生徒会活動を紹介し、後半はグループごとに「メディアを上手に活用するには」「生徒一人ひとりが主体的に動くような学校にするには」「みんなが来たくなくなるような学校を作るためには」といったテーマに分かれて討論し、発表して得られた考えは、今後の学校生活や生徒会活動に生かしていける内容となりました。部活動交流では、あきる野市



からは秋多中学校、東中学校及び御堂中学校、栗原市からは若柳中学校が参加し、ソフトテニスの試合を行いました。大変暑い中でしたが、とても白熱した試合が行われ、スポーツを通じて交流を深めることができました。その後昼食時には、餅つき体験も行い親睦を深めました。3日間の交流会を通じて、それぞれの生徒が、日常の学校生活では味わえない経験をするとともに、あきる野市や栗原市を深く理解することができました。今回の交流体験により、あきる野市と栗原市の友好親善の輪がより広がっていくことが期待されています。

国際姉妹都市交流 中学生海外派遣事業

教育委員会では、国際姉妹都市であるマールポロウ市(米国マサチューセッツ州)との教育交流を実施しています。

今回で22回目となる中学生海外派遣団(市立中学校生徒・8人)は、8月15日(水)から8月23日(木)までの9日間、マールポロウ市内のホストファミリー宅にホームステイし、ウィットコム・スクールの生徒と様々な交流を行いました。

8月20日(月)には、マールポロウ市役所を表敬訪問しました。市議会議場にて一人ずつ英語でスピーチを披露し、名誉市民として表彰されました。



また、8月21日(火)には、ウィットコム・スクールの元先生の

ご自宅で行われたプールパーティーに参加しました。パーティーでは、事前研修で練習したラジオ体操を日本語と英語で披露した後、ホストファミリーとプールで泳ぎました。また、次の日に誕生日を迎える団員へサプライズケーキをプレゼントするなど、みんなで楽しいひと時を過ごしました。



マールポロウ市でのかけがえない貴重な体験や、出会った方々とのたくさんの思い出を胸に、派遣団は8月23日(木)に無事帰国しました。

そして、12月8日(土)に秋川ふれあいセンターにて派遣団員と引率者が帰国報告を行います。ホームステイ中に撮影した写真を披露しながら、現地での貴重な経験を市民の方々に報告する予定です。

『教育フォーラム』 ～みんなで進める食育～

10月13日(土)午後1時30分から、あきる野市立小中学校PTA連合会とあきる野市教育委員会との共催で、教育フォーラムを開催しました。当日は、多くの皆様に御参加をいただきました。

今年度は、女子栄養大学・女子栄養学短期大学部長で香川栄養学園理事長の香川明夫氏を講師に迎えて、「みんなで進める食育」という演題で講演をしていただきました。

「健康で豊かな心をもつ子どもを育むために、楽しい食育、豊かな食育をみんなで進めていく必要がある」ということを、様々なデータをもとに分かりやすくお話いただき、参加者一人ひとりが明日からできることについて考え、「共食」の実施に向けて食生活を見直す機会をいただきました。

